



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/2 (月)	+ 800	▲ 23,900	▲ 23,100	国庫短期証券発行償還 (3M) 国庫短期証券発行償還 (2年)	国債補完供給 + 3,400		日：金融政策決定会合における主な意見 (1月22・23日分) 欧：ユーロ圏製造業PMI (1月)
2/3 (火)	トン	▲ 20,000	▲ 20,000				米：ボウマンFRB副議長、討論会に参加
2/4 (水)	トン	▲ 100,000	▲ 100,000	法人税・消費税・保険料揚げ 国債発行 (10年)	共通担保 ▲ 8,000		米：ADP雇用統計 欧：ユーロ圏サービス業・総合PMI (11月) ：ユーロ圏CPI (1月)
2/5 (木)	トン	+ 7,000	+ 7,000				欧：ECB、政策金利発表 ：ユーロ圏小売売上高 (12月)
2/6 (金)	トン	+ 1,000	+ 1,000	国債発行 (30年)			日：コール市場残高 (1月) ：増一行日銀審議委員、愛媛県金融経済懇談会で講演 米：失業率 (1月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比4,800億円増加の464兆1,500億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行等の要因により増減し、30日は468兆1,500億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.728%から始まった。一部金融機関が試し取りを実施したことによりやや上昇した日もあったが、同金利は概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W～3W物0.710%～0.900%のレンジ、1M～3M物0.785%～0.920%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では2日に金融政策決定会合における主な意見（1月22・23日分）の公表、6日にコール市場残高の公表、海外で4日にユーロ圏CPI（1月）の公表、5日にECB政策金利発表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ～ 0.728
1M	0.775 ～ 0.85
2M	0.85～ 0.90
3M	0.85 ～ 0.95
6M	0.95 ～ 1.20

<レポ>

足許GCは週央まで+0.745%～+0.75%の狭いレンジで取引された。月末を跨ぐ取引となる29日は+0.74%近辺から出合い始めたが、徐々にレートが低下し+0.73%台での出合いも見られた。2年債と短国の発行が重なる翌30日には終日+0.75%近辺の出合いとなった。

SC取引は2年470～479回債、5年155～181回債、10年356～371、378～380回債、20年110～130回債30年86～88回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆8,116億円で、週間償還額の3兆1,140億円を下回った。発行残高は、先週末時点の26兆2,144億円から、1月29日時点で26兆5,419億円へと増加した。発行市場では、不動産業・食料品・その他金融業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.70%台後半から0.90%台、3か月物で0.90%台から1.0%台、と幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆1,300億円となっている。発行市場は、償還額と同程度の発行が見込まれる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることから、引き続き水準を見極める展開が続くだろう。

<TDB>

30日の3M（1359回債）の入札は、最高落札利回り0.7586%（前回債0.7393%）、平均落札利回り0.7516%（前回債0.7277%）となった。

来週の入札は2月6日に3Mが予定されている。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70%台
CP 3M	0.80 ～ 1.00